

# 平成 30 年度第 1 回小牧市食育推進会議 会議録

---

日 時：平成 30 年 5 月 22 日(火)午後 2 時 30 分～

場 所：小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室

## ○出席者

### 【委 員】

長島会長、青山委員、河和委員、倉知委員、山口委員、小島委員、小久保委員、  
藤岡委員、近藤委員、松本委員、山中委員、野田委員、小澤委員

### 【事務局】

余語課長、余語係長

## ○欠席者

中東副会長、菱田委員、佐々木委員、伊藤委員、佐野委員、高橋委員、愛野委員、  
丸藤委員

## ○議 題

平成 30 年度小牧市食育推進活動について

## ○配布資料

- ・平成 30 年度第 1 回小牧市食育推進会議次第
- ・平成 30 年度食育に関する取り組み一覧
- ・平成 30 年度愛知県食育推進ボランティア募集要項
- ・「あいちエコ食スタイル」パンフレット
- ・学校給食献立表（4 月・5 月）
- ・第 3 次小牧市食育推進計画（PR 版）
- ・食品ロス等啓発パンフレット

## ○傍聴者

な し

## 【会議録】

事務局：

平成 30 年度第 1 回小牧市食育推進会議を開催いたします。

本日の会議の進行をつとめます、小牧市地域活性化営業部農政課農業振興係長の余語です。よろしくをお願いします。

まずはじめに、2 点報告いたします。1 点目は、本日の会議傍聴者は 0 名です。2 点目は、今年度より数名、委員の交代がございましたので、任命書を机上に配布しています。新しい委員のご紹介は後ほど行います。

では、農政課長の余語よりあいさつをさせていただきます。

農政課長：

本日は、第 1 回小牧市食育推進会議にお集まりいただきありがとうございます。私は、農政課にまわりまして、3 年目になります。

新しい委員もいらっしゃるので、第 3 次小牧市食育推進計画についてお話しいたします。平成 28 年に策定し、平成 29 年度から 5 年間の計画です。本日お手元に概略版（PR 版）と、3010 運動のパンフレット等も配布していますので、ご覧いただきたいと思います。

近年、新聞等で、食品ロスの削減などが話題にあがっています。私も、家族でスーパーに出かける前には、冷蔵庫の中を確認してから買い物に出かけるようにしており、少しの心がけですが、食品ロスを減らす一助になるのではと思います、取り組んでいます。平成 26 年度、646 万トンの食品ロスがあったという数字が出ており、食糧援助の 2 倍の量にあたるそうです。他国をみますと、フランスでは 2 年前に、スーパー（400 m<sup>2</sup>以上）では食品の廃棄は禁止する法律ができたり、イタリアでは食品が余った場合は、必要な団体に寄付をする活動を奨励する法律ができたという動きもあり、日本でも徐々に法整備がされてくるのではと思っております。このような背景を少し知っていただいて、今後の食育推進活動に、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日の会議は、平成 30 年度の食育に関する取り組みの情報共有の場として成り立っておりますので、その点を踏まえながら、進行いたしますのでよろしくお願いします。

事務局：

続きまして、小牧市食育推進会議会長、長島様から、挨拶をいただきます。よろしくお願いします。

会長：

私は、前身の「食育推進チーム」であったときから、7 年携わっています。その間に、小牧市食育推進計画が第 2 次から第 3 次に見直しがされ、新たに、野菜摂取を増やす取り組みの推進、食物アレルギーへの理解の向上、食品ロスの削減普及啓発の 3 点が盛り込まれました。その中で、平成 29 年度は、野菜摂取を増やす取り組みに力を入れて、委員のみなさまに一年間取り組んでいただいたのですが、今年度はどこに重点を置いて活動するべきか考える必要があります。先ほど申しあげた、野菜摂取を増やす取り組みに関して、昨年 2 回の会議の中では、どれだけ野菜摂取が多くなったかなど、達成度が見えづらいと感じており、当然、5 年間の計画の最後には、その成果について評価が必要と

なりますので、今後、その成果を「見える化」する等、何か評価ができるような取り組みができないかと思っています。この会議の中で、その話し合いを持てたらと考えています。

農政課長から話がありました食品ロスに関して、新聞で取り上げられることが増え、身近でもよく耳にする機会が増えたと思いますが、子ども食堂についても、よく新聞で話題になっています。子ども食堂は、いろいろな方が、さまざまな関わり方をして、輪が広がっていると感じています。この会議でも、この話題を広げていけたら良いと考えています。

本日も、委員の活動計画について、ご報告いただけることになっていますが、いままでどおりコラボレーションしていける部分は協力して、この会議のチームとして進めていけるよう、ご協力をお願いいたします。

事務局：

ありがとうございます。続きまして、今年度、5名の委員の変更がありましたので、それぞれ新しい方からひと言ずついただきたいと思います。では、尾張中央農業協同組合代表 青山様です。

青山委員：

はじめまして、よろしくお願いいたします。4月の人事異動で営農企画課へ異動になり、担当になりました。内容について、今後勉強していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局：

ありがとうございます。続きまして、こまき環境市民会議代表 倉知様です。

倉知委員：

こまき環境市民会議から選出された倉知です。この会議の内容をまだ把握できておりませんが、これから勉強していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局：

ありがとうございます。続きまして、小牧市私立幼稚園連合協議会代表 山口様です。

山口委員：

こんにちは。この会議ははじめてですが、野菜大好きな子どもたちを育てたいと思い、私の所属する美鳥第二幼稚園では、5月の連休明けにたまねぎ堀りをしたり、6月にはじゃがいも堀りをするのですが、土から獲ったものは、スーパーのものとは違って本当に美味しいと、こどもたちが言ってくれます。野菜の本物の味を小さいうちから味わってもらうことが食育につながると思っていますので、いま私が現場で行っていることを、みなさまにお伝えしていく所存です。よろしくお願いいたします。

事務局：

ありがとうございます。他2名の委員は、本日欠席となっておりますので、お名前のみ紹介させていただきます。小牧市小中学校長会代表 伊藤様と、小牧市教育委員会生涯学習課 丸藤係長です。

今後ともよろしく申し上げます。

それでは、以降の議事進行については、長島会長にお願いいたします。

会長：

本日の会議は、委員 21 名に対して、13 名出席でありますので、過半数に達しており、成立しています。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

平成 30 年度小牧市食育推進活動について、事前に委員よりご報告をいただいておりますので、お手元に配布しております。それでは、資料の順番にご説明をいただきます。内容の多いものもございますが、お一人 3 分程度で発表をお願いします。

では、最初に尾張中央農業協同組合代表 青山委員、お願いします。

青山委員：

今年度、新規に行うのは、味噌小学校のバケツ稲作です。昨年は対応していなかったのですが、今年から新たに学校が増えました。お米作りの作業を通して、お米の大切さや、食・農に対する関心を高めていきたいと考え、新たに取り組めます。

また、先日から 4 校の野菜栽培体験が始まりました。指導員と一緒に小学校に苗を届け、小学校 2 年生の児童と栽培体験を行っております。野菜に興味を持ってもらい、どのように野菜が育つのか知り、収穫を体験することで、野菜を好きになる環境づくりをしています。

そして、昨年に続き、小学校で大豆を栽培し、J A 女性部と豆腐づくり体験を行います。この体験を通して、食に対する意識を高めていただきたいと考えております。

他にも、「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶や、食べ残しをしないなどの指導を行い、さきほど話に挙がっていた食品ロス等に関して意識してもらえよう活動をしていきたいと考えています。以上です。

会長：

こういった体験のあとに、子どもたちに感想文を書いていただくことはありますか。

青山委員：

実際、先週、児童が野菜栽培体験を行って、小学校から私たち指導員あてに、お礼の絵や感想を送ってくれました。

会長：

どのような頻度で行うかはわかりませんが、アンケート調査などを実施することは可能なのでしょうか。参加した子どもたちに「どうでしたか」といったような簡単なものですが。

青山委員：

(いただいた感想は) アンケートのようなもので、本日は持ってきていないのですが、「小学校にきて教えてくれてありがとう」、「教えてもらったことを活かして栽培します」、「野菜がしっかり育つ

ように頑張ります」という内容です。

会長：

アンケートの結果を、この会議としてまとめることも可能なのではと思い、お聞きしました、ありがとうございます。次に、小牧市食生活改善協議会代表 河和委員、お願いします。

河和委員：

まず、小学校の家庭科調理補助ですが、大城小学校から依頼があり、6月に実施します。

そして、夏休みに入ってすぐに、おやこ食育教室を行います。

ミニ健康展は、今年度は味岡地区と巾下地区で行います。このときは、「野菜の手ばかり」を実施しています。例えば、昨日一日に食べた野菜の品数や量を、会場に用意した本物の野菜を使って、詳細に重さを測り、可能な限り実際に食べた量と同じものを見てもらいます。アンケートも集めています。

生涯骨太クッキングは、保健センターで行う予定です。広報に掲載して、一般市民を対象に実施します。おやこ食育教室も、広報で募集します。

歯ピカピックへの参加について、歯科医師会が勤労センターで開催しているもので、野菜や、歯についての絵本の読みきかせと、「野菜の手ばかり」を実施しています。特に、1日の野菜摂取目標である350gのキャベツを、生のものと電子レンジで加熱したものを用意し、実際の量を見ていただくことによって、生野菜より加熱調理のほうが、摂取が容易であることを認識してもらいます。また、手ばかりの結果を見て、緑黄色野菜が不足している方や、350g摂取を達成していただくためのアドバイスも行っています。よく、家で畑を野菜を栽培している方で摂取量はとても多い方がいるのですが、収穫した野菜を食べているので、野菜の品数が少なく、必要なビタミン・ミネラルのバランスが少し足りない場合が見受けられます。そのようなときに、どのような野菜を付け加えてバランスを取ると良いか、ご提案をさせていただきます。

いきいきこまきへの参加も、同様の内容で行っています。

続いて、ヘルスサポーター21について、毎年市内の中学校を2校ずつ回り、調理の基本を見せたり、保健センター栄養士による講習を行っています。私たちの理念は、「私たちの健康は私たちの手で」であり、今日食べたものが明日自分の体をつくること、ダイエットに関してや、バランスのとれた食事の大切さ、健康な大人に成長していくためのプロセスを学んでもらいたいと考えています。このとき、アンケートを、事前と実習後の2回実施しており、毎年どこの学校の生徒もそうなのですが、小牧市の中学生はとても素直で、2回のアンケート内容の変化を見ると、食に対する素直な反応を示してくれるので、私たちもその反応を楽しみにやっています。

世帯別スキルアップ事業については、今年度初めて実施します。一般市民の公募を行い、自宅で簡単に作れる介護食をテーマに実施します。

家庭訪問によるみそ汁塩分調査について、昨年までは、私たち小牧市食生活改善協議会として、全国の一般家庭における塩分調査を実施しており、5～6年続けてきたのですが、今年から行わないことになりました。ですが、小牧市としては、もう少し続けたいと考え、毎年お願いしている方たちに加え、幅を広げ、世代を広げて塩分調査を行います。今までの調査で、毎年アンケートを実施してい

ましたが、その中に野菜摂取に関する項目があり、それを見ると、いかに少ないかがよくわかり、今後もこのアンケートを続けていく予定です。

昨年から、若い世代に向けて、パパママ教室での塩分測定を行っており、担当している栄養士から、塩分に関するご相談が増えたとの報告があり、この活動によって、数は少ないかもしれませんが、小牧市の生活習慣病予防につながっていくのではないかと期待しています。その際にも、アンケートを実施しており、野菜摂取量などの質問項目もあります。100～200程度の、わずかな数なのですが、過去のアンケートの記録は残っているので、「見える化」につなげることができるのではないのでしょうか。

他に、広報こまきに掲載する「生き生きレシピ」、ふれあいサロン・いきいきサロン・味噌児童館の事業参加を予定しています。これは、レシピの提供などを考えています。以上です。

会長：

問題点に、会員数の減少とありますが、現在は何人ですか。小牧市の会員ですか、それとも愛知県としてですか。

河和委員：

小牧市です。新しく加入した4名を含め、合計28名です。ただし、その中には、介護者を抱えていたり、ご自身が病気であったり、高齢化などによって、実動できる方が少ないのが現状です。今後、いかに加入者を増やしていくかが課題であり、毎年、養成講座を保健センターで実施しています。

しかしながら、加入者数はなかなか増えません。講座には、毎年参加してくださる方もいますが、遠慮されて、いまひとつボランティアのほうに進んでいただけない方も見受けられます。私も、何度か養成講座に参加して、様子を見ているのですが、前年も参加された方や、熱心に発言される方もいますが、推進員への加入にはつながりません。春日井市は、養成講座を受講した方は、最低1年は強制的に加入するという形をとっているようで、小牧市においても同じように行えるのではないのでしょうか。愛知県の中では、養成講座の案内を全戸配布している市町があるようです。私のゆかりのある岐阜市でも、全戸配布しています。そうすると、もっと参加してくれる人が増えるのではと思うのですが、全戸配布となると予算も必要となるので、難しいとも考えています。しかし、市民の数に対しての会員数が、少ないことが残念です。

会長：

どうしたら増えるのか、難しい問題ですね、この活動を、28名で行うのも大変ですね。

河和委員：

そうです。昨年、会員数を増やす方策について、小牧市・江南市・岩倉市・大口町・扶桑町と合同の意見交換の場があり、参加しました。そこでは、「加入すると、このようなメリットがある」というのを、短く、インパクトのある言葉で打ち出すと良いという意見がありました。そのとき、私たちのメリットとは何か、と考えたときに、近くに管理栄養士の先生がいてくださるので、最新の情報が得られることだと思いました。テレビや雑誌で耳にしたことが、正しい情報であるかを、すぐに専門

家から教えてもらうことができるということがメリットでは。他には、子どもたちからの「楽しかった」や「ありがとう」という声が、私たちのモチベーションにつながっていると感じています。

会長：

ありがとうございました。次に、こまき環境市民会議代表 倉知委員、お願いします。

倉知委員：

私たちは、地球温暖化対策地域協議会事業として廃食油の回収を実施します。小牧小学校、小木小学校、光ヶ丘小学校の3校で、月1回学校の入り口で行います。これは、子どもが持参したり、保護者が気にかけてくださっていますので、年1回、回収実績を発表しています。なかなか、数字の伸びは大きくはありませんが、油を捨てない等の、環境にやさしい行動を心掛けることの大切さ、水や川への影響を考える機会として、進めていきたいと思っています。

そして、1年を通して、菜の花プロジェクトを実施しています。私たちと、小牧市女性の会を中心に、菜の花を栽培し刈り取って、その種で油をしぼり、その油を法隆寺に奉納するという活動です。法隆寺への奉納は、光ヶ丘小学校の児童が修学旅行で行く際に依頼しています。菜の花の栽培に関わっている小学校は、小木小学校、光ヶ丘小学校です。種まきと油しぼりの後は、その油を使ってドーナツ作りをしており、子どもたちはとても楽しみにしています。活動に対する感想文も子どもから寄せられています。

環境フェアは、11月に開催されます。市民に、菜の花の油しぼりを体験してもらい、この種からこの量の油しか採ることができないということを感じてもらえる機会にしています。小牧市には、休耕田がたくさんあるので、その田を利用して、菜の花を栽培し、油しぼりができたらという夢を抱きながら行ってるのが現状です。以上です。

会長：

菜の花は、草取りなどの世話が大変なんですか。

倉知委員：

1年を通して大変です。油をしぼるために、なるべく消毒をしないようにと心掛けているので、手間がかかります。先日、種に付くアブラムシの件を、JAに相談し、影響の少ない対策を相談したところ、小麦粉を溶かしたものや、酢を薄めたものを使う方法等を聞きましたので、試しているところです。連作をしている加減か、なかなか大きく育たないのが悩みです。今後、研究が必要と思っています。

会長：

連作せずに、休耕田を使って順番に耕作していけるといいということですね。実現させるのは難しいかもしれませんが。ありがとうございました。次に、小牧市私立幼稚園連合協議会 山口委員、お願いします。

山口委員：

小牧市には、私立幼稚園が10園あります。それぞれ幼稚園で特色はありますが、その中から、美鳥幼稚園、美鳥第二幼稚園の2園で実施する活動を報告いたします。

私たちの幼稚園では、子どもたちは、私たち先生の影響もあると思いますが、「野菜はすばらしいもの」という認識を持っています。

先日はたまねぎ堀りを行い、3歳児も一緒に参加しました。冬場、11月頃に植えたのですが、そのときにも、たまねぎのにおいがするねと話しながら実施しました。収穫まで一番時間がかかります。

誕生会等で、毎月、その時期に採れる旬の野菜を紹介しています。その成果か、葉をみれば野菜の名前が言えるようになりました。

昨年までは、夏野菜、主にきゅうりやトマトを、朝に収穫して給食として食べていたのですが、衛生面から取りやめになり、今年は収穫したものは持ち帰って食べていただくことになったので、残念に思っています。収穫した野菜をその場で食べると、トマトなどは甘くておいしいのですが、そういったことが、今後は難しいのかなと感じています。

また、肥満の子どもに対して、食育として改善できるよう考えています。保護者から聞き取りをすると、そういった子どもは、家庭でのお菓子の摂取が多いようです。「我が家の食育メニュー」として、保護者から募集する方法も考えていますが、あまり堅苦しいものは、保護者も提出しづらいと言われるので、少しずつ進めて、若いお母さん方にも関心を持ってもらえるようにと思っています。

動物も飼育しているので、栽培したニンジンの葉っぱをうさぎなどのえさに使用しています。

畑が、幼稚園から歩いて2～3分のところにあるので、毎日見に行きます。私たち先生だけでは対応できないので、畑の管理人がおり、植ええや収穫の年間スケジュールを相談しながら進めています。子どもたちも、とても楽しみに活動しているので、食育推進に良い効果があると考えており、報告させていただきます。以上です。

会長：

畑の管理人がいらっしゃるのですね。そこは、たまたま、管理人がいらっしゃったのですか。

山口委員：

はい、そうです。元々ご実家が農園を経営している方で、ぶどうを栽培されているそうです。子どもたちとの関わりを積極的に行っていただけの方で、子どもたちの笑顔を大切にされています。収穫の際も、年齢の高い子から収穫させるなど、親身に教えてくださっています。

会長：

子どもたちにとって、とてもいい体験ですね。他の幼稚園でもこういった活動が実施できるといいですね。

山口委員：

私たちの畑の管理人のように、野菜作りが得意で、子どもたちに教えてあげたいという方がいらっしゃると可能だと思います。子どもたちも、管理人をととても慕っていて、野菜に関する説明も、管理



人からの説明を一生懸命聞いています。

会長：

良い活動ですね、葉から野菜がわかるという指導もすばらしい。

山口委員：

そうですね、子どもたちは「野菜はすばらしい」という意識があります。

会長：

給食での野菜の取り扱いはどうでしょうか。

山口委員：

今年、給食センターが変わり、安全給食という規定が厳しくなり、生野菜は入荷しなくなりました。

食育として、収穫した野菜をその場で食べる活動を行っていましたが、気温の上昇や衛生面から、幼稚園で調理して食べることは難しくなってきました。

会長：

ありがとうございました。次に、小牧市生活改善実行グループ連絡研究会 小島委員、お願いします。

小島委員：

年度初めに視察研修を実施します。今年は岐阜県関市へ、畑を所有する方から収穫に関する説明を聞くための見学に行く予定です。会員は、畑を所有する者が多く、作物によって栽培方法が異なるので、皆で同じ体験をして仲間の親睦を図る目的で計画しました。

市民講座について、中部大学の長島教授と学生による新しい発想を交えて協働で実施します。市民とのふれあいを大切に、幅広く交流を深めて、みなさんに地産地消の拡大を推進したいと考え、活動しています。

私たちグループの楽しみとして、飾り巻き寿司の講習も行っています。

農業祭について、五平餅やみたらし団子の販売をしています。併せて、私たちの活動を、写真や展示品を使って市民に知っていただくけるよう、展示も行っています。

活動を通して、地産地消のありがたさ、小牧市は美味しいものが食べられるということを市民に広めていけるようなグループにしたいと思っています。以上です。

会長：

ありがとうございます。この市民講座に関しては、私の大学の学生たちから募集したレシピを提供しています。そのレシピを、実際に市民に作っていただくことを目的としているのですが、学生たちにも非常に勉強になり、貴重な体験となっています。

では、続いて、小久保委員、お願いします。

小久保委員：

昨年まで味噌づくりや餅つきの講習会を実施していましたが、場所等の関係で、今年から実施できなくなってしまったので、健康食堂「ぷらむはうす」での啓発と、月1回のこまきこども食堂の活動を行っています。こども食堂は、2年前にこの会議で実施したいと発言し、今年で3年目になりますが、どのような形でも、長く継続できるものにすることを目標に、いろいろな方から協力していただきながら行っています。昨年までは、不登校の子たちの集まる場として運営していましたが、今年度4月から、中部大学の長島教授と、学生たちと一緒に実施できることとなりました。なるべくボランティアとともに活動していきたいと考えていますが、集まる食材に合わせてメニューを決めており、直前に決まることもあるので、せわしないですが、何とか形になってきたように感じています。6月は食育月間なので、愛知県の郷土料理50選の中から「鶏めし」をメニューとして、名古屋コーチンで作りたいと思っています。子ども食堂だけではなく、以前に月1回実施していた朝市も、また実施できたらと考えています。以上です。

会長：

ありがとうございます。こども食堂の活動には、私のゼミの学生が、この5月で2回参加させていただいております。食事の提供に関する手伝いをさせていただきながら、卒論テーマとして、こども食堂でできる食育活動について考える機会としています。実は、学生たちと、この活動を長く続けることは、とても大変なことだという話をしたことがあります。寄付の食材が集まるかどうかもわからず、必ず食材が揃う確証もない中で、瞬時にメニューを考え、月1回とはいえ、ここまで続けられるということの苦勞に思いをはせ、少しでもお手伝いをしたいと思っています。このような活動に対する市町村の補助等が増えていると思いますが、小牧市としてのお考えはありますか。

事務局：

後ほど報告する予定でしたが、今年度、協働診断にかかるモニター業務の一環として、食品ロスを削減するためのネットワークを構築する考えがあります。まだ、どのように実施するか、詳細は決まっていますが、例えばどこかの野菜が、売れ残る、余るなどの事情があるとき、食品ロスとならないように、構築したネットワークを利用して、次の提供の場へつなげることを検討しています。

会長：

そういったネットワークで連携がとれると良いですね。次に、藤岡委員、お願いします。

藤岡委員：

私は、こまき食育応援団の個人登録をしています。併せて、コープあいちで「食と健康アドバイザー」をしており、その中の食育グループが、こまき食育応援団「きいろいタンポツ歩」として登録しています。本日は、個人の活動と、コープあいちの活動を合わせて報告いたします。

年4回、「親子でチャレンジ」という親子の料理交流会を実施します。

次に、昨年に引き続きジュニアセミナーの依頼がありましたので、「きいろいタンポツ歩」と有志で対応します。7月、9月、10月に実施しますが、今回のテーマは「スイーツ」として、シフォン

ケーキ、みたらし団子、クッキーを予定しています。味噌市民センターにて定員 16 名で開催します。小・中学校で募集しますが、去年は小学生が対象で行いました。

生活展では、食育活動の紹介と、食育に関するゲームを実施しています。今年の詳細は決まっていますが、例年は小牧市公民館の講堂前（正面）に机を 3 本借用し、大豆の七変化や、におい当てゲーム、箱の中身当てゲームなど、市民が参加できるような取り組みをしています。

コープあいちとして、「小牧のつどい」という、さまざまなメーカーや生産者を招いて、自社商品や、その商品への思い等を熱く語っていただく交流会があります。これは、どなたでも参加できます。今年 11 月 23 日祝日に、小牧市公民館で実施が決定しており、広くお知らせをして来場していただきたいと考えています。

ふらっとみなみで行う、こどもクッキングについて、小久保委員から引き継いで実施することとなりました。5 月 20 日に、「おにぎらずと味噌汁」を、小学 1 年生から 5 年生まで、15 名参加がありました。

「生活習慣病の予防と対策」講話について、こまき食育応援団として初めて依頼をいただき実施しました。城南接骨院が、25 周年記念のセミナーを行うため、「食生活から始めよう、生活習慣病予防と対策」をテーマに、1 時間程度講演会を実施してほしいという依頼で、同じく 5 月 20 日にこどもクッキングと同日に行われました。両方の準備で失念していたのですが、せっかく推進員の一人として講話を行うので、食育推進計画リーフレットを配布した方がよかったと、後日思い返し、反省しているところです。講話のときには、食育推進計画の概要や、こまき食育応援団へ依頼していただいた経緯は口頭でお話ししましたが、参加者の手元にリーフレットがあると、また違ったのではないかと思います。以後、同じ機会があれば、しっかり PR したいと考えています。以上です。

会長：

ありがとうございます。「きいろいタンポッ歩」という団体でも活動されているのですね、その活動が、ベースになっていることが良くわかりました。次に、小牧市保育課 本庄保育園 近藤委員 お願いします。

近藤委員：

保育園では、毎日の給食が、子どもたちの食生活に密接に関係していると考えながら取り組んでいます。

給食指導として、栄養士が作った献立をもとに、毎日保育士が子どもたちと一緒に給食を食べる際に、「よく噛んで、味わって食べること」の大切さを子どもたちに伝えています。

給食に使用する食材の中で、さやえんどうのすじとりやそらまめのまめとりなどを体験をしてもらい、自分たちが携わったものが、自分たちの給食となって提供される喜びを感じることが、心を育てているのではないかと考えています。体験のできない、月齢の小さい子どもたちには「これはお兄さんたちが、今日テラスで皮をむいていたお豆なんだよ」とお話ししながら、興味をもってもらうよう心がけています。

また、調理員も、作り手の思いを伝える機会があると、子どもたちとの関係も良くなると考え、保育室にきて、給食に入っている食材の話をしてもらうなどの活動に少しずつ取り組んでいます。

また、保護者とともに実施するものとして、毎日の給食を展示して、保護者に伝える「給食展示」と、保育園の給食を食べていただく機会を設けて、子どもたちへの食に関する指導の説明などを行う「給食試食会」があります。給食の献立について、保護者から作り方を聞かれることがあり、子どもたちに人気の高いメニューの紹介も行っています。

クッキングは、保育園で育てた夏野菜を使って、子どもたちと一緒に、食べたり作ったりする体験ができる機会を設けています。

私たちのこれからの課題は、便利な世の中になり子どもの食生活が変化していく中で、保育園の給食を気にかけて家庭でも実践していただけるよう、地域の方とも協力しながら、子どもたちに食べる喜びや育てる喜びなど、多くのことを伝えていくことだと感じています。以上です。

会長：

ありがとうございます。さきほどの私立幼稚園や保育園においても、私が大学で行っている食育の授業で伝えている内容が、全てここに報告されているということを感じました。調理体験の重要性、農業体験を通じて、実際に自分の手で育てることによって残さず食べることができるようになるなど、教科書ベースで話していることが、このように実践されていることがわかり、これをまた、学生の授業に還元できると思います。次に、小牧市保健センター 松本委員、お願いします。

松本委員：

パパママ教室、離乳食教室、歯みがき教室は、6月から実施します。

歯みがき教室は、保育園のほうへ歯科衛生士と栄養士が合同訪問し、実施しています。

特定健診前の35～39歳を対象とした、ヤング健診について、その結果説明会において、貧血や数値に異常値があった方や、肥満傾向のある方に対して指導や相談を行っています。

ヘルスマイト養成講座は、河和委員から説明があったとおり、食生活改善推進員の養成を行うもので、家族の健康を考える食生活講座を実施しております。さきほど、会員数の増加が課題にあがっていましたが、保健センターにおいても、会員の方と協力し合いながら問題解決に向かって取り組んでいきたいと考えています。

生活習慣病予防相談は、毎週月曜日行っています。健康教育は、区や市民団体からの要望によって栄養士が実施します。お口元気はつらつ教室は、歯科衛生士とともに実施します。

「健康日本21こまき計画」とは、保健センターにおいて策定しているもので、その中の栄養・食生活部会において、対外的な活動を行っています。現在は、こまきヘルシーメニューの拡大、働き世代の生活習慣病予防の改善、子どもの朝食欠食改善のための方策を中心に取り組んでいます。こまきヘルシーメニューについては、利用者の家庭での食事をヘルシーにする工夫の活用や、メニュー提供店の継続、新規申し込み店舗の拡大が課題です。ヘルシーメニューには、1日の1/3の野菜摂取量という認定基準があり、1食当たり120g摂取できるよう定めているのですが、昨年度は野菜の高騰の問題があり、利益を考えると継続が難しいとして、やめてしまう店舗がありました。今後いかに健康志向の店舗を増やすことができるか考えていきたいと思っています。働き世代の生活予防の改善について、小牧市は、愛知県の平均に比べ、一人当たり医療費が高く、生活習慣病や糖尿病・高血圧などの疾患も県平均より高いといわれています。生活習慣予防は、60歳くらいから急激に症状が現れ、

そのときには治療が必要であったり、重大な疾患につながっている場合が多く、30代の若い世代に向けた生活習慣予防が大事だと考え、今年度、食事に関するリーフレットを作成し、配布していく予定です。子どもの朝食欠食改善について、子どもの朝食欠食は年々悪化しており、保護者の朝食改善が子どもの食生活改善につながるようになるので、保護者に向けたアプローチを、部会で検討していきたいと考えています。資料にはありませんが、例年、小学校5年生に対して、望ましい体格を知るためのリーフレットを、夏休み前に配布しています。これは栄養教諭の先生や学校栄養職員の先生がたに協力していただき、内容の説明とともに配布する予定です。以上です。

会長：

ヘルスマイト養成講座は年に何回実施しているのですか。

松本委員：

年1回で、10月～3月まで半年間の講座です。年々ボランティアを希望する方が減っており、4年ほど前までは、募集すると、定員30名に対して20～25名程度応募があったのですが、現在は10名以下の場合もあります。時代の変化も感じているのですが、中には募集に気づかない方もいるので、市として何か対策を考えていきたいと思っています。

会長：

さきほどあったように、全戸配布するなどですね。ありがとうございました。次に、小牧市環境対策課 山中委員、お願いします。

山中委員：

さきほど、倉知委員から報告がありましたが、私どもは、こまき環境市民会議の事務局となっていますので、事業が重複する項目が多くあります。廃食油の回収、菜の花プロジェクトです。市民会議の委員の中に、女性の会の会員が多いため、その方を中心に活動していただいています。

環境フェアに、菜の花の油しぼり実演とありますが、資料にはありませんが、マイバッグ作りも行っています。「マイバッグを利用し、過剰包装をやめる」活動として、このマイバッグ作りに関しても、女性の会を中心に実施しています。

毎年、市民環境講座を実施しており、昨年度は「環境にやさしい料理講座」を開催しました。全4回講座の中の1回として、昨年度は3種類のレシピを講師から提供いただき、エコポイントを入れて実施しました。今年度も、8月に講座を開催しますので、興味ある方は応募していただきたいと思います。フードコーディネーターの先生に講座を依頼しています。

環境映画鑑賞会は、昨年度8月に行いました。以上です。

会長：

廃油の回収について、以前はバイオエネルギーに変えると聞いていましたが、今は何に活用しているのですか。

山中委員：

女性の会が、エコ活動として石鹸作り体験を行っているので、その原料として使用しています。公用車のエネルギーとして使用していたのですが、その公用車が廃車になったため、現在は使用していません。

会長：ありがとうございました。次に小牧市学校教育課 野田委員、お願いします。

野田委員：

小牧市内の小・中学校での食育活動について報告します。さきほどからお話にあるように、JAや女性の会などいろいろ方に協力していただきながら、学校教育の中で食育に取り組んでいます。

学校教育における健康教育は、学校教育全般を通じて行っていますが、授業として行っているものは、例えば学級活動の時間があります。主なものとして、学校給食での、準備・マナー・栄養に関する話を、毎年度初めに行います。家庭科や保健体育の授業でも、食物の栄養についてや、食事の摂り方について取り組んでいます。授業以外では、給食の時間に、栄養教諭や養護教諭から今日の給食について話をする機会を設け、子どもたちに、食物の良さ、摂取しないときの影響などを話して聞かせることもあります。学校には学校保健委員会を開催しなくてはならないという規定があり、年に1～2回、各学校で、全校生徒あるいは高学年の児童を対象として委員会を開催しています。その中でも、食育をテーマとして取りあげ、子どもの委員会活動でのアンケート調査や、保護者からの声や、専門家から話を聞いたりという形で進めています。この、学校保健委員会は、食育だけがテーマではなく、学校によっては、自分の体を知ってケガを防ぐ方法、口と歯の健康について、生活習慣、心の問題、他には、近年増えている薬物に関する問題など、多岐にわたっています。

学校における農業体験の推進は、三ッ淵小学校の米作り、一色小学校の梨、陶小学校や桃ヶ丘小学校の桃など、各学校で地域の力を借りながら行っています。青山委員からの報告にもありましたが、地域の協力によって進めているので、すべての学校で実施することができないことが課題です。小学校では、植物栽培が授業の中にありますので、必ず1回は体験する機会がありますが、継続的に取り組むことができていないのが現状です。

給食を通じたコミュニケーションの促進について、子どもたちは給食の時間をとても楽しみにしています。そこで、グループを作って食べたり、しゃべりながら食事をしたり、そんな楽しい給食を目指して各学校で取り組んでいます。その中でも、マナーの必要性の指導に力を入れています。それが、家庭での食生活につながっていくと考えています。

学校給食を通じた食育活動の啓発について、給食時の放送で、今日の献立について紹介しています。月1回、特別な献立について説明が入るときもあります。小牧市で作られている食材の紹介や、調理方法、例えば名古屋コーチンなどの説明をします。「愛知の給食を食べる日」もあり、愛知県産の食材、例えば西尾市抹茶を使ったゼリー等の説明を聞きながら食べることもあります。学校のホームページには、給食の写真と献立、カロリー、栄養素を掲載しているページがありますので、各家庭でも子どもの食べたものを確認してもらうことができます。毎年11月には、残菜調査があり、委員会活動を通して、学校給食課を経由し、県に報告する調査で、残菜の減少に取り組んでいます。

P T A・他機関との連携について、各学校において給食試食会を開催しています。そこで、保護者

に給食を食べていただき、学校給食を懐かしんでいただいたり、子どもたちの食べているものを知っていただくことで、家庭での会話の種になっているということです。資料として、4月および5月の学校給食献立表を配布していますが、栄養教諭の佐野委員から、ぜひ紹介してほしいということで提供いたします。献立名と原材料名のほかに、小牧の食文化や郷土料理について記載しています。毎月、野菜を使った朝食メニューの紹介もしており、レシピとして家庭で利用していただくことができます。小牧市ホームページからもご覧いただけます。

会長：

残菜調査をされていて、年々減少している等のごたえはありますか。

野田委員：

残菜調査を行う、その週は気を付けているという感じです。

会長：

さきほどの食品ロスの話にもつながりますが、なかなかゼロにはならないということですね。

野田委員：

難しいと思います。年頃になると食べなくなってしまうこともあります。以前のように、学校が「残さずすべて食べよう」という指導をしないので、「食べられる量にしておく」や、「栄養に気を付ける」等、優しく、柔らかい表現で給食指導を行っているので、強制的に食べさせれば、残菜はなくなるかもしれませんが、そうすると、給食の楽しさもなくなってしまい、食育につながらないと思いますので、無理強いはできないのが現状です。

会長：

わかりました。次に、尾張農林水産事務所 小澤委員、お願いします。

小澤委員：

愛知県において、小牧市と同様に食育推進計画を策定しています。あいち食育いきいきプラン 2020 と名称で、5ヵ年の計画を策定し、これに基づいて取り組みを展開しています。県が直接実施するというよりは、各地域で食育を実践していただける方の手助けになるような取り組みを行っています。

あいち食育いきいきレポートとは、県内市町からの活動報告をまとめ、紹介することで、活動団体等の参考にさせていただきたいとの思いから、毎年作成しています。7月公開予定で、ウェブサイト「食育ネットあいち」で公開しています。

県では、食育推進ボランティアに登録した方に情報提供を行ったり、研修会の案内等を実施しています。本日から、平成30年度食育推進ボランティアの募集が始まり、要項を県ホームページに掲載しています。6月末まで受け付けていますので、興味のある方は登録をお願いします。

農林水産事務所（尾張、あま、知多、西三河など）の各地域で、研修交流会を各地域1回ずつ開催しており、今年度は9月7日開催予定です。毎年テーマが変わり、昨年度は食品ロスについて話し合

いましたが、今年は魚食、もっと魚を食べようというテーマで計画しております。食育をどうやって伝えていくか、推進方法の参考になるような研修会や、関係者交流会を考えておりますので、分野の異なる方にも参加していただける内容にしていきたいと思っています。

食育いきいきシンポジウムは、毎年、県全体を対象に、岡崎市で開催しています。専門家を講師とした講演会や、パネルディスカッションを中心にした内容です。

野菜の摂取量向上のための料理講習会を11月に開催する予定ですが、昨年度のテーマは食品ロスと郷土料理について実施しました。今年度は、野菜の摂取量向上につながるようなレシピの講習会を行います。

食育劇「食まるファイブ」上演は、小学校を対象に着ぐるみと劇のシナリオを提供して実施していただくという取り組みで、毎年行っています。年に1度の講習ですが、小学校からの応募により提供しています。

食育ネットあいちは、とても充実した内容になっていますので、よろしければご覧ください。適宜更新しています、みなさまから掲載してほしい情報がありましたら、イベント案内等掲載が可能ですので、お声がけください。

小学生の農林漁業体験学習の推進として、地元に関心者がいない、農地がないなどの問題で、体験学習が困難といったところに、少しでも実施していただけるように、地域協力者一覧を作成して毎年1回配布しています。昨年度はJA尾張中央にも協力いただきました。

いいともあいち運動の推進は、地産地消についての運動で、随時行っています。あいちエコ食スタイルという冊子がありますが、今年度は「食品ロスの削減について」をテーマに、平成30年3月に発行した冊子です。予算の都合により、年1回テーマを決めて発行しています。昨年度は郷土料理に関するテーマで作成しましたが、ページ数が多く、冊数に限りがあったのですが、今年度の冊子はまだ残数があります。以上です。

会長：上映会は、年にどのくらい上映しているのですか。

小澤委員：

県全体では20～30件で、年によって変わりますが、4～5校くらいで上映していただいています。

会長：

ありがとうございます。それでは、本日欠席の委員の報告を、事務局からお願いします。

事務局：

それでは、報告いたします。

愛知県食品衛生協会小牧支部 高橋委員からの報告です。食品営業者の自主管理体制づくりのための再講習会、食品取扱施設に対し県の認定によるリスク管理優秀店の育成、食中毒防止の広報、量販店店頭での啓発活動、食育推進協力店の推進講習会の開催・パンフレットの配布、食品営業関係従事者の検便・食品の細菌検査、食品営業許可取得への養成講習会、行政指導員の食品営業施設への定期巡回指導、食品衛生指導員の大手工場見学、食品衛生指導員への行政の専門講師による勉強会開催な



ど、食品衛生に関わるさまざまな取り組みが行われています。食育推進協力店への推進講習会におけるパンフレット配布の際には、小牧市の作成したのもも配布していただきたいと考えています

次に、小牧市生涯学習課 丸藤委員からの報告です。食育に関する出前講座の実施として、市民からの要望があった場合に、関係する出前講座の担当に連絡する役割を担っています。

次に、小牧市歯科医師会 佐々木委員からの報告です。歯の健康センター歯ピカピックの開催、学校、保育園、幼稚園での歯科健診、保健指導、健康教育、よい歯の表彰が報告されています。佐々木委員から、要介護が必要な高齢者を減らし、健康寿命を延ばす取り組みには、歯の欠損を減らすことが必要であると聞いています。現在 80 歳の歯の残存数は平均 14 本で、80 歳の 90%が何らかの義歯を装着している現状があり、義歯は咀嚼機能が実歯に比べて 1/4～1/5 程度となるため、咀嚼機能が衰え、認知症になりやすく、要介護度も高くなる傾向にあるそうです。そのためにも、咀嚼機能を維持し、カロリーオーバーにならない高齢者を増やす必要があります、健康な歯を増やすことが重要であるとのことです。そのために、20 代から 50 代の虫歯予防対策が効果的であるとの報告をいただいています。

次に、小中学校長会代表 伊藤委員からの報告ですが、さきほど、野田委員から報告と同様で、小牧市教育委員会として、取り組みを実施しています。

次に、小牧市学校給食課 愛野委員及び栄養教諭 佐野委員の報告です。いきいきこまきにおける体験ブースの出展、給食だよりの発行、食に関する指導、学校ホームページによる啓発、学校給食における地場産物や郷土料理の活用です。特に、5月学校給食献立表の下欄において、小牧の食について啓発を実施しているとのことです。

次に、小牧市農政課から報告です。第3次小牧市食育推進計画のPR版を今後もイベントや会議など、さまざまな機会に啓発を行いたいと考えています。みなさまも、PR版パンフレットが必要な場合は、農政課までお申し出ください。

藤島・池之内市民菜園事業について、市民自らが畑の農作業を行うための区画の提供をしています。

小牧市蔬菜研究会の協力による地元野菜の販売について、6月2日から市民四季の森で開催するバラ・アジサイまつりに出店します。6月2日10時から、地元農業者が生産した野菜を販売します。小牧市民まつりやいきいきこまきにも出店予定です。

食育の日として、毎月19日に小牧市職員用庁内ネットワークで啓発を実施しています。

小牧市ホームページに、食育に関する専用ページを掲載しています。さまざまな食育のイベントや、こまき食育応援団の紹介も行っていますので、みなさまの活動で掲載したい内容がありましたら、積極的に掲載していきたいと考えていますので、お声がけください。

小牧市生活改善実行グループ連絡研究会と連携して実施している料理教室は、中部大学生の考案する「ときめきおしゃれレシピ」を、市民とともに作り、食育を啓発する事業です。昨年度から始まり、今年度も実施します。

いきいきこまきでの他団体との連携について、これは、さきほど紹介した小牧市蔬菜研究会による地元野菜の販売のほか、農業祭などJAをはじめとする他機関と連携して、地元野菜の地産地消等をPRしていくものです。

協働診断にかかるモニター業務として、食品ロス削減ネットワークの構築と、食物アレルギーに

関する講座の開催に取り組みます。食物アレルギー講座は、こまき食育応援団の「クリスマスローズ」という団体に、「子どもの食物アレルギー」をテーマに開催していただく予定です。

資料にはありませんが、JAに委託し、農業体験講座を開催していること、手元に配布いたしましたパンフレット「食品ロス削減」と「3010運動」の啓発も積極的に進めていきますので、必要な方はお声がけください。以上です。

会長：

ありがとうございました。

最初に申しあげましたが、食育推進会議の活動をホームページに掲載するなど、具体的に見える化できるよう、今後事務局と相談していきたいと考えています。

それでは、以上で全員の報告が終わりました。各委員の報告に対するご意見、ご質問はございませんか。

ないようですので、これで、会議は終了させていただきます。その他、事務局から報告はありますか。

事務局：

特にありません。

会長：

では、進行を事務局に返します。

事務局：

ありがとうございました。これをもちまして、平成30年度第1回小牧市食育推進会議を終了いたします。お疲れ様でした。